



# 碧南ロータリークラブ週報

第2974回例会 令和3年4月14日(水)

- 会長 岡本 明弘
- 幹事 鈴木 泰博
- 会場監督(SAA) 服部 弘史

2020-2021 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内  
TEL<0566>41-1100
- 例会場 碧南商工会議所ホール  
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90  
FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

- 会報委員 林 俊行・石川鋼勇・牧野勝俊



ロータリーは機会の扉を開く

## ●本日のお弁当

大正館

## ●本日のお客様

(株)ブルーチップ 代表取締役 馬場憲之様

## 会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。本日は岡本会長が2回目の気を使っただきましてお休みですので、代わりにご挨拶をさせていただきます。

新年度も始まりまして、新1年生の生徒や新社会人を見かけるようになりました。この時期は慣れない交通環境での通学や通勤ということで、交通事故が心配されるところです。今、春の全国交通安全運動の期間中ですので、少しでも交通安全の話をさせていただきます。

2年ぐらい前から横断歩道の歩行者の妨害ということで、取締りが強化されました。目的は交通違反を取締り、子供の事故と横断中の事故を減らすということで、私も横断歩道は歩行者優先ということは、昔から知っている訳ですけれども、以前はなかなか止まることができませんでした。取締りが強化されてからは、検挙されないために意識して止まるようになっていました。そして、何度も何度も止まっているうちに違和感なく止まることができるようになってきました。

月間自動車管理の記事の中に検挙率を上げることで、停止を意識するドライバーが増え、結果として子供の事故と横断中の事故が約30%も減少したと書いてありました。また、継続的に検挙を続けることは、事故の減少だけでなく、最初から止まることが習慣化された新しい交通環境を生み出すことが目的ということでありました。いつの間にか習慣化していた自身の経験からも、なるほどなあというふうに思っております。皆さん、思いやりと譲り合いの



藤関孝典副会長

気持ちを持って安全運転で頑張りましょう。

本日の例会、よろしくお願い致します。

## 幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第10回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。



鈴木泰博幹事

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 64 名 (内出席免除者 15 名の内出席者 11 名) 出席者 55 名	
出席対象者 55/60 名	出席率 91.67%
欠席者 9 名 (病欠者 0 名)	

### <ニコボックス>

伊藤 正幸君 昨日、第3回WFF実行委員会が開催され、神野実行委員長をはじめ各委員の皆さんのWFFに対する熱い決意をうかがえました。皆様の御協力よろしくお願ひいたします。

木村 徳雄君 今シーズンのスキーが、先週4月11日 日曜日、開田高原マイヤースキー場で終了しました。来シーズンにそなえて66歳の体を鍛え直してスキーシーズンを向えます。

竹中 誠君 先日の3クラブゴルフコンペにて岡本耕也君に息子が世話になりました。おかげでBB賞を頂き、帰って来ました。

岡本 耕也君 松山英樹プロ、マスターズ優勝おめでとうございます。感動しました。

石川 鋼逸君 本日の卓話の講師、(株)ブルーチップ 代表取締役 馬場憲之様をご紹介させていただきます。

過日行われました、碧南3クラブ親睦ゴルフ大会にて、優勝させて頂きました。岡本会長、バカラのグラスありがとうございました。また、4月10日発刊の日本商工会議所月刊誌「石垣」に、おもいのフライパン取り上げて頂きました。大変名誉な事に関係者一同感激しています。

杉浦 邦彦君 4月8日(木)に開催されました3クラブ親睦ゴルフコンペのRCの部で優勝する事が出来ました。頂いたギフト券は妻にプレゼントして、大変上機嫌で喜んでいました。ありがとうございました。

長田 康弘君 4月10日に葵カントリークラブ6番ホールにて、ホールインワンをしまいました。ありがとうございました。よろしくお願い致します。

柴田奈生子君  
水谷 文則君

先週、忘れてしまいました。最後の最後まですみません。

昨日4月13日、弊社明治安田生命は碧南市と健康増進と高齢者・子どもの見守りを中心とする包括連携協定を締結いたしました。日頃の営業活動や、様々なイベントを通じて、碧南市の健康増進に向けた取組みに協力して参ります。また、地元企業の皆さまには、「健康経営優良法人認定」の取得に向けた支援も実施して参りますので、宜しく願いいたします。

## 卓 話

### 「常滑にワイナリーを作るまで」

㈱ブルーチップ 代表取締役 馬場憲之様



馬場憲之様

どうも初めまして。株式会社ブルーチップの馬場と申します。よろしくお願い致します。

農業の6次産業化と書いてあるんですが、まずもって、6次産業についてお話ししたいと思います。1次の農産物の栽培、2次の加工、3次のサービス、この1と2と3を足しても良いですし、掛けても良いですが6になるということで、国の事業として農業の6次産業化と言います。その6次産業化というのにワイナリーというものが1番適しているんだろうと思って、これをビジネスとしてスタートしました。

先ほど、石川社長にもご紹介していただいた通り、長崎県の生まれでして、大学でこちらに来まして、そのまま名古屋の証券会社に就職しました。丁度バブルが弾けた辺りの平成2年度の入社で、入社式がブラックマンデーというなかなか素晴らしい経験をさせていただきました。そんなまだバブルの残り香がある中で、厳しい証券会社で6年間働きましたが、自分の夢を追いかけていたい思いが沸々とありました。そして、30歳の時に名古屋空港で航空券をデリバリーする事業を始めました。名古屋市内をぐるぐる営業して回ったところ、おかげさまでお仕事をいただき、2年目から順調に動き始めていたんですが、アメリカ同時多発テロ事件が起きました。あの日は仕事終わりに事務所に戻ったら、アルバイトの男の子に「飛行機がビルに突っ込みました。」と言われ、皆で煙が出ている映像を見ていたら、さらにもう1機がビルに突っ込み、その時は映画のワンシーンのようだなと思いながら帰りました。翌日、会社に出社したところ、仕事がゼロになっていました。一切の注文が取り消され、何の仕事もなくなり、どうしようかということをお互いに話し合い、答えが見つかりませんでした。ありがたいことに3か月後ぐらいには仕事が戻ってきました。今回のコロナはその頃よりも随分と厳しいなと思いますが、そういう経験の中で先方が仕事を辞めると言ったら自分たちの仕事なくなるBtoBのビジネスに関して限界を感じておりました。それでも続けてはいたんですが、10年間一緒に働いていた従業員が総額770万円の横領をしていたことがわかりまして、30歳年上の方と2人で起業していたんですけれども、その方とつるんでいたんじゃないかなど疑心暗鬼になりまして、喧嘩別れした訳じゃないんですが、会社を分社化しようという話になりまして、株式会社ブルーチップという会社を作りました。憧れていたアメリカがあった

ので、そこに何とか絡めたことができないかと思って、ブルーチップという会社の事業展開を始めました。

農業をと思って、今は遊園地になっちゃっているんですけども、ロサンゼルスの中ベリーファームというところに昔はいちご園がありまして、向こうはいちご狩りというのはなくて、ストロベリーピッキングと言って、いちごをピックして量り売りで買えるというようなカルチャーなんですけれども、家族連れで楽しんでいるのが非常に素敵だったので、どうしてもそれをやりたいと思いました。そこで初めて農業が免許制だということを知りまして、長崎から出てきてどうやって農業をやったら良いかわからなかったんで、農林水産省に電話したところ、親が農家か農業大学校を卒業するか認定農業者の下で修業をするという3つの選択肢しかありませんでした。親が農家でもなく、大学は農業大学校でもなかったんで、東浦の農家さんのところで1年半修業をしまして、個人農家として愛知県に新規就農者ということで認定をいただき、農業を始めまして、いちご園を作りました。最初はお客様が全く来なくて、大量にいちごを捨てていました。どうやって皆様はいちごやいちご狩りを探すのかということを知りたいと思ってネットで検索しまして、当時、「クマもはまるいちご狩り」というよくわからないサイトがありまして、そこにいちご園が沢山載っておりました。登録料に5,000円かかるだけでそれ以上はお金がかからないということで、「アメリカないちご狩り」というキャッチフレーズで登録したところ、翌日には予約でいっぱいになっていました。電話が殺到しまして、予約がどんどん来ることで、やっとネットビジネスや企業がプロモーションすることが若干わかり始めました。結局、お客様はポータルサイトに集まっており、そこにいないとキャッチアップできないということに気がきました。また、Googleのアナリティクスを使ってお客様の動きをトレースしたところ、トップページの離脱率があまりにも高かったんで、トップページの1番上の目立つところに電話番号を載せて、尚且つ、スマホだとクリックするとそのまま電話ができるようにしてみました。翌日から電話が鳴り止まなくなりまして、いちご園がオーバーフローしてしまいました。

空港事業もまだ続いておりまして、たまたまアメリカのデルタ航空とノースウエスト航空が合併して、新生デルタ航空になる時にVIPアテンダントの仕事の入札を運良く弊社がいただくことになりました。ミーティングがアメリカのデトロイトであるということで、行きの飛行機の機内誌の中にオレゴン州の特集がありまして、私が目指している世界じゃないかと思ひまして、デトロイトのミーティングの後に航空券を切り替えて、そのままポートランドに飛んで行きました。ポートランドに行ったら、初めて行く土地で右も左もわからなくて、スマホで適当に検索して飛び込み営業をバンバンしていったところ、素敵なワイナリーがあるということを知ってもらいまして、ユージーンキングエスレートというワイナリーに行きました。そこは映画のワンシーンのようなレストランとぶどう畑と全米から来るお客様を地元の人たちが全力でもてなしているシーンが本当に美しく、私はどうしてもそれを日本に作りたいたいと思って帰国しました。これがワイナリーを作ろうと思ったきっかけです。

農家レストランを作るにはどうしたら良いかということで、農業生産法人を作り、国のスーパーL資金の融資枠を広げるために農業経営改善5か年計画というのを認定農業者として、法人として、農家レストランの経営、いちご園の経営、ブルーベリー園の経営、ワインの醸

造、ぶどう畑の経営ということで常滑市に提出したところ、ブルーチップファームという名前で登録をさせていただきました。しかし、農地法という法律があって、農地にレストランを建ててはいけないということがわかったので、農園の近くの土地を探しまして、そこでハンバーガーショップを始めました。最初は全然お客様が来ませんでした。色々試行錯誤をして、年間 60,000 人のお客様に来ていただけるようになりました。ただ、農家レストランというのは未だ不可能で、それを諦められずにいたら、面白いことを言うおじさんいるよということで、愛知県庁から 20 人ぐらい私のファームに来てくださって、そこで演説をしたら、あなたの考え方は正しいと賛同してもらえて、農業の 6 次産業化ということで、愛知県庁から推してもらえることになりました。1 回目は落選したんですけども、2 回目で愛知県の第 1 号案件として国家戦略特区、農地にレストランを作るといいという許可を得ることができました。農家レストランができるということで内閣府にお願いしたら、ワイナリーは作ってはいけないと言われてまして、どうするかは自分で考えるように言われました。政府系ファンドで今はもう形が無いんですが、農林漁業成長産業化支援機構（A-FIVE）というのが愛知県だけで 10 億円ほど予算を持っていることを知り、トライしてみました。名古屋銀行とタッグを組んで事業計画書を提出したところ、ワイナリーも作ることができました。今、うちのレストランに来ていただくと、丁度真ん中から海に向かって左側が国家戦略特区の農家レストラン、右側が農林漁業成長産業化支援機構（A-FIVE）のワイン事業、それを両方足してワイナリーレストランというふうにしてあります。行政と名古屋銀行と内閣府ということで、皆様にチームを作ってください、私の大騒ぎをする夢に乗っていただきました。

コロナ禍において、飲食業が厳しいと言われている中、ハンバーガーショップは売りが上がっております。農家レストランにおいては、団体のお客様はゼロになってしまいましたが、個人のお客様だけで昨年と同じ売り上げになっております。捨てたもんじゃないなと思います。これは基本的に飲食ビジネスというものがダメなんじゃなくて、皆様が外に出掛けるということは、リスクを背負ってまで非日常を感じてお客様は幸せになりたいんだと思っておりますので、それで今ワイナリーレストランをやっています。コロナ禍にこんなことをするのはちょっと頭がおかしいと思われそうですが、6 月には名古屋にもう 1 店舗出します。7 月には安城にもう 1 店舗出します。逆にここは勝負しようということで、どこかでビジネスチャンスは生まれているでしょうし、もう恥も外聞も捨てて、夢とロマンでお仕事をさせていただいています。皆様ご機会がありましたら、常滑に足を運んでいただいて、ワインを飲んでいただければと思います。

今日はありがとうございました。

## 次回例会案内

令和 3 年 4 月 28 日（水）定款第 7 条第 1 節（d）（1）による休会

令和 3 年 5 月 5 日（水）は法定休日

令和 3 年 5 月 12 日（水）クラブフォーラム「地区研修・協議会報告」